

シデコブシ *Magnolia tomentosa* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。本地域を代表する固有種である。

【形態】

夏緑性の小高木または低木。高さは5mくらいのもが多いが、時には10mに達する。葉は互生し、長さ2~5mmの柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ5~10cm、幅1~3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は3~4月に葉が展開する前に咲き、直径7~10cm、花被片は12~18枚あってがくと花弁の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ3~7cmになり、種子は赤色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(芹沢 57642)、田原赤羽根(芹沢 74427)、渥美(芹沢 74436)、小原(芹沢 58070)、藤岡(芹沢 58007)、豊田東部(芹沢 75276)、豊田北西部(芹沢 74428)、岡崎南部(芹沢 48083)、幸田(芹沢 60785)、瀬戸尾張旭(芹沢 75279)、犬山(芹沢 71407)、小牧(日比野修 4700)、春日井(福岡義洋 2225)、名古屋北部(芹沢 74429)、ただし幸田は、幼木が1株あっただけである。半田武豊(武豊町二ツ峯湿地)にもあったというが、この湿地は知多半島道路拡幅に伴う土砂採取によって破壊され、標本も残されていない。

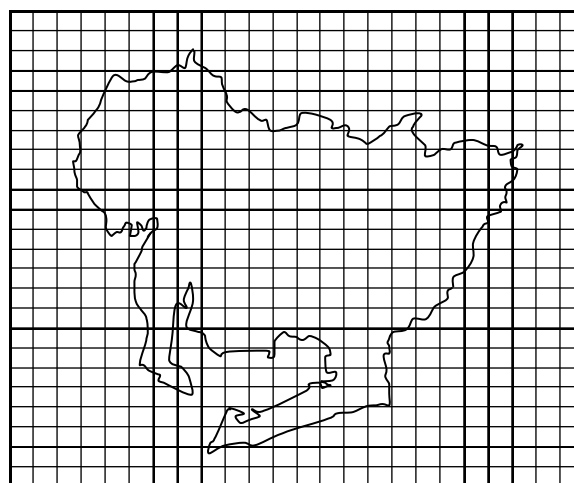
【国内の分布】

本州中部(愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部)に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ個体数は多いが、二次林の利用停止に伴い、被陰によって枯死する個体が目立つ。とりわけ、岡崎南部の集団は危機的である。丘陵地だけに開発圧力も高く、砂防ダム建設等により生育地が破壊されることもある。一方で、分布域の周辺にある小集団では、園芸目的で持ち去られ絶滅した例もある。その一方で保全されている場所では、過剰管理によって自然集団としての特性が失われてしまった例もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。萌芽力の強い樹種であるため、ある程度の株数がある場所ならば、伐採に際して本種に特に配慮する必要はない。

【特記事項】

やや矮性で花の色が濃い系統は、「ヒメコブシ」の名で広く栽培される。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 1 に掲載されている。

【関連文献】

保木 p.219、平木 p.106、SOS旧版 p.49+ 図版 16、環境庁 p.443、SOS新版 p.94-97。